

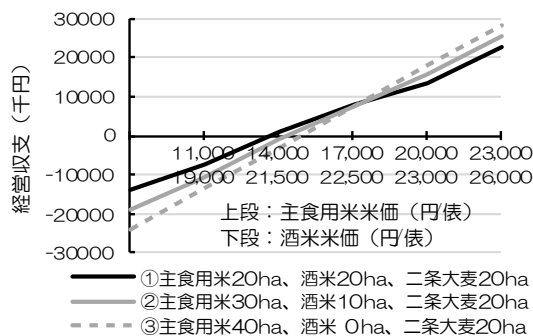
米価の変動に合わせて経営判断を支援する 経営モデル・試算ツールを作成しました

経営モデル

表 経営収支の試算結果（モデルより抜粋）

	水稻 (主食用米)	水稻(酒米)	二条大麦	計
作付面積(ha)	20	20	20	60
粗売上高(円)	29,750,000	30,000,000	10,416,000	
交付金(円)	0	0	8,428,240	
小計	29,750,000	30,000,000	18,844,240	78,594,240
生産費(円)	10,954,800	10,954,800	7,078,000	28,987,600
借地料(円)	*借地料は5,000円/10aとする			2,700,000
雇用費(円)				16,207,500
減価償却費(円)				18,207,204
修繕費(円)				4,791,791
小計				70,894,096
経営収支(円)				7,700,144

注) 経営費には経営主の報酬、事務費、雑費等は含まない。



経営 試算 ツール

作目・規模の設定

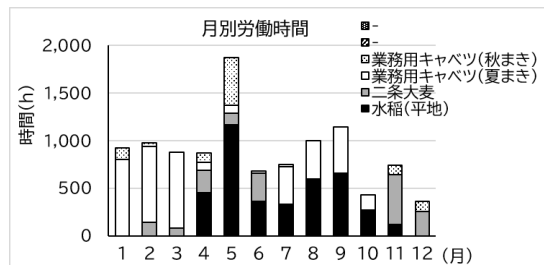
品目	品目 (リストから選択)	面積 (ha)
品目①	水稻(平地)	30
品目②	二条大麦	20
品目③	業務用キャベツ(夏まき)	8
品目④	業務用キャベツ(秋まき)	2
品目⑤	-	
品目⑥	-	

試算に用いる数値

収量 (kg)	単価 (円/kg)	生産費 (円/10a)	補助金 (円/10a)
525	283	54,774	0
420	124	35,390	42,141
6,000	58	207,705	10,000
6,000	58	207,705	10,000
0	0	0	0
0	0	0	0

注1) 上表には自動で数値が入るが、数値は変更可能。

注2) 小数点以下を切り捨てて表示しているため、実際の数値と異なる場合がある。



開発のねらい

農業経営では作目の選択が収益を大きく左右しますが、米価の変動や生産コストの上昇により、各作物の利益を正確に見極めることが難しくなっています。そこで、米価の変動による収益の増減を試算でき、新たな作物や事業を導入する際の経営判断を助けるためのモデルを作成しました。

新技術の概要

- 岡山県の大規模稲作向けに、酒米、主食用米、業務用キャベツ、業務用タマネギ、ブロッコリー、稲わら収集を導入した際の経営収支を試算しました。
- 経営モデルでは、米価の変動に応じて経営収支がどう変わるかを比較でき、品目を切り替えるべき価格の目安が分かります。
- 各経営体の実数値を入力できる試算ツールにより、作付規模や収量、販売単価に合わせた収支の検討が可能です。

活用場面

本モデル・ツールは各農業普及指導センターへ配布します。各経営体の実情に合わせた条件で試算を行うことで、新たな品目・事業の導入や機械投資を検討する際の参考材料として活用できます。